

## 17. 特産鶏肉生産技術 (農家実証試験)

畜産試験場 真鳥 清  
 本村高一  
 農政課専門技術員 黒瀬静雄  
 大村農業改良普及所 佐藤隆義

### 諸 言

鶏肉に対する消費者の嗜好が多様化する中、日本在来鶏を利用した高品質な鶏肉の生産が全国的に行われている。

そこで、長崎県在来の「つしま地鶏」を利用した高品質な鶏肉の生産に適する鶏を造成し、その普及、特産品化を図るために、「つしま地鶏肉用特産鶏コマーシャル」として期待される「つしま地鶏ホワイトロック交雑鶏」の農家における能力を実証した。

### 試験方法

#### 1. 試験実施期間

平成元年(1990)年4月～7月, 5月～8月

#### 2. 試験場所

大村市 佐古和博

#### 3. 供試鶏及び羽数

つしま地鶏×ホワイトロックの雑種第2代

#### 4. 供試羽数

800羽

表1: 増体成績

日 齢	体 重 (kg)			飼料摂取量 (g)		飼料要求率
	雄	雌	平均	雄	雌 込み	雄 雌 込み
28日齢	0.61	0.56	0.59	926		1.97
62日齢	2.04	1.79	1.92	4742		2.47
92日齢	3.02	2.12	2.57	8404		3.27

表2: 解体成績 (歩留まり)

	生体重 g	腿肉 g (%)	胸肉 g (%)	ささみ g (%)	腹腔内脂肪 g (%)
雄	3450	675 (19.7)	334 (9.6)	119 (3.5)	64 (1.8)
雌	2660	542 (18.2)	305 (12.1)	108 (3.8)	77 (2.9)
平均	3055	609 (18.7)	320 (10.9)	114 (3.7)	71 (2.4)

## 5. 飼養管理

飼育期間は92日間とした。

飼育方式は、ブロイラー開放鶏舎における、密度20羽/3.3m<sup>2</sup>の雄雌混飼による平飼い飼育とした。

給与飼料は、0～20日齢をCP21.5%ME 3040kcal/kg, 21～70日齢をCP18.0%ME 3170kcal/kg, 71～92日齢をCP18.0%ME 3170kcal/kgとした。

## 6. 調査項目

体重、飼料摂取量、飼料要求率、育成率、解体成績

### 結果及び考察

体重においては、92日齢で雄雌平均2.5kgを越え出荷可能な体重となった。このときの雄雌の体重差は900gであった。

飼料要求率は、後半でCP-ME水準の低い飼料を給与したこともあり92日齢で雄雌込みで3.27となった。

育成率では0～62日齢で99.5%、0～92日齢で96.3%となった。

農家においても、つしま地鶏肉用特産鶏コマシャルの候補鶏である「つしまホワイトロック交雑鶏」は、92日齢においてすでに体重雄雌平均2.5kgを越える増体能力を発揮することが実証された。

出荷時にこれ以上の体重を望む場合には、雄同士の闘争性が強くなっていくこと、雄雌の体重差が900gと大きいことから雌の外的損傷が多くなる可能性があるため、野外放飼等で密度を軽減するか、雄だけ先に出荷することの必要性が考えられる。

今回供試鶏として用いたつしま地鶏ホワイトロック交雑鶏は、つしま地鶏とホワイトロックのF<sub>1</sub>（雑種第1代）同士の掛け合せて得られたF<sub>2</sub>（雑種第2代）であったが、F<sub>1</sub>とさほど変わらない増体能力を示した。このことと、つしま地鶏とホワイトロック純系同士の掛け合わせによるF<sub>1</sub>生産時の受精率や種鶏の体重管理、飼料費等の問題を併せて考えれば、F<sub>1</sub>を種鶏として利用しF<sub>2</sub>をコマシャルとして生産する方が、雛のコストも安くなるのではないかと考えられる。